



ファミリーテニスクラブ 三条市

オーナー/ヘッドコーチ 岩月 正行さん
マネージャー/チーフコーチ 野田 依里さん

スポーツを通して 深める交流

周囲の協力を得て

夕暮れのコートに響く子どもたちの声。黄色いボールが次々に行き交っています。錦織選手の快挙に沸くなか、三条市の住宅街にあるファミリーテニスクラブにおじゃまして、オーナーの岩月さんとチーフコーチの野田さんにお話をうかがいました。

「スポーツを通して、仲間たちと家族ぐるみの交流をしたいと考えて、昭和54年にクラブを設立しました。テニスを始めた中学生の頃、母が手

も当時のことが鮮明に蘇ってきて、感極まることがあると話してくれました。

テニスを通して

「こんにちは！」大きな挨拶でコートに集まってきた子どもたち。レッスン前には、野田コーチを交えて楽しそうに話していました。合図とともにボール突きの練習が始まると、はしゃいでいた子どもも真剣な眼差しに。「サーブが楽しい。もっと強くなりたい。」「ボール拾いが大変。」「コートはやさしいし、練習が楽しいと、みんな口々に教えてくれました。「上手くなることはもちろんですが、テニスを通して、努力することや協力し合うことを学んでもらえたら嬉しいですね。」と、コーチ歴8年となる野田さん。爽やかな笑顔が印象的で、練習のようすらも子どもたち



なんかん 探訪

Vol. 161



ファミリーテニスクラブ

●クラブハウス
三条市下坂井 20-11
(三竹ひまわり保育園通り)
TEL: 0256-35-4882

●35年間の主な戦績
全日本ジュニア選手権、
全日本小学生選手権、
全日本中学生選手権
インターハイ・国体・
全日本学生選手権
男子3名 女子11名
(うち県高校チャンピオン6名・
2年連続3名)



入れをしていた広い畑を眺めながらいつかテニスコートが欲しいなと思ったのが始まりかもしれません。」と振り返る岩月さん。高校進学後もテニスに夢中になり、当時軟式と呼ばれていたソフトテニスで天皇杯に出場するまでに、70歳を過ぎた現在でも、不動産の仕事の合間を縫って練習をされて、年5回県外の大会に出場し楽しんでいらっしやいます。また現在、50歳以上の会員は25名で、みなさん元気にプレーされているそう。

「どうしてもテニスクラブを作りたいくて、設立当時は周りの方々にご協力いただきました。現在のJAにい

ちに暮われていることが伝わってきます。

「ここで練習していた子が大きくなって県外に行っても、帰省するたびに遊びに来てくれたりするんですよ。後輩たちの指導を手伝ってくれる人もいて、嬉しく思っています。」ジュニアクラスの他にも、若い頃にテニスをしていた方が、現代のテニスの方法を学びに来たりと、様々な年齢の方が野田さんの指導を受けているよう。野田さんご自身も、クラブ出身の田中さんとダブルスで挑む県大会をひかえ、4連覇をかけて準備中。クラブハウスの壁には賞状がずらりと並んでいて、これまでに何人も優秀な選手を送り出してきた歴史がわかります。「クラブ名にファミリーと付いているくらいですから、当初に思い描いていた、家族ぐるみの交流を大切に

がた南蒲になる前の、三条市農業協同組合で初代組合長を務めた馬場伝平さんにも、大変お世話になりました。」開設の資金を集めるため、各地の篤志家に理解を求め、最初に出資してくれたのが、当時大崎農協の組合長をされていた馬場さんだったといひます。「私の計画に賛同して勇気を与えてくれた人。設立に一番貢献してくださったのは伝平さんでした。数年後、私は農協の准組合員となって、恩返しのためで出資させていただきました。現在に至ります。」と岩月さん。今で

しています。」仲間たちとの交流を深めていくことは、人間性の成長にもつながるのでは、と話す岩月さん。ご自身もクラブのなかで人生の先輩たちから学んだことが、仕事にも生かされた実感しているそう。

「長年やってこれたのは、歴代マネージャーやコーチたちに恵まれたからだと思います。一過性の付き合いではなく、ここで育った子どもが大きくなって、コーチとして手伝いに来てくれる。そんな流れが続いていくと満足ですね。」青空が高く見える今日この頃。今年の秋は、仲間と一緒に楽しく汗を流す。スポーツの秋、にしませんか。



●現コーチ兼マネージャー 野田 依里
新潟県テニス選手権 一般女子ダブルス
平成23年、24年、25年 三連覇
●コーチ 田中 泰子
国体新潟県代表 一般女子シングルス・ダブルス
平成24年